

2019年度学生による地域フィールドワーク研究助成事業
研究 成 果 報 告 書

- ・機関及び学部、学科等名： 富山国際大学現代社会学部
- ・所属ゼミ： 谷脇茂樹ゼミナール
- ・指導教員： 谷脇茂樹
- ・代表学生： 鈴木哲平
- ・参加学生： 12名
青木 志峰(現代社会学部3年)
稲澤 克明(現代社会学部3年)
犬嶋あいら(現代社会学部3年)
姜 在禧(現代社会学部3年)
北村 奈央(現代社会学部3年)
黒田 春菜(現代社会学部3年)
清水 美凧(現代社会学部3年)
鈴木 哲平(現代社会学部3年)
塚田 健悟(現代社会学部3年)
福山 陽日(現代社会学部3年)
村井 咲栄(現代社会学部3年)
頼成 奈那(現代社会学部3年)

【研究題目】観光を通じた黒部市の地方創生

1. 課題解決策の要約

2015年の北陸新幹線開業は、黒部峡谷鉄道の乗車数や宇奈月温泉の宿泊者数の増加をはじめ、黒部市の観光に大きな影響を及ぼした。しかし、それ以降、観光客の入込は減少傾向となっている。

その一方で、2023年の北陸新幹線が敦賀まで延伸、宇奈月温泉開湯100年、黒部ダム完成60周年といった記念イヤーに加え、2024年には関西電力黒部ルート的一般開放も控えている。そのため、こうした機会の利用は、黒部市の観光振興を考えるうえでも、非常に重要である。そこで、本研究では、黒部市の観光振興における問題点・課題を整理するため、黒部市や黒部・宇奈月観光局などへのヒアリング調査や、宇奈月温泉エリアにおいて観光客を対象にアンケート調査を実施した。

こうしたフィールド調査を通して、黒部市の観光には、①冬期の観光閑散期への対応策強化、②脆弱な二次交通の改善策の検討、③観光地が点在していて周遊しづらい課題への対応策、④既存の観光資源の磨き上げが足りずストーリー性を欠いている、という問題点・課題があることを整理した。そして、この問題点・課題を解決するため、①訪日外国人観光客(中国人)をターゲットとした受け入れ環境整備(ウィンタースポーツの強化)、②黒部市ならではの「観光ストーリー」の創造、③滞在型観光を促進するためのナイトタイムエコノミーの強化、にテーマを絞り、具体的な観光まちづくりプランのとりまとめを行った。

2. 調査研究の目的

少子高齢化が進む黒部市において、2023年の北陸新幹線敦賀延伸、2024年の関西電力黒部ルート的一般開放は、観光による地方創生を実現させていくうえでも有益なチャンスといえる。黒部市には、立山黒部ジオパーク、宇奈月温泉といった魅力ある観光資源が多い。新たな観光資源を発掘し、既存の観光資源との融合を図る観光ストーリーの構築が、さらなる魅力創造につながる。

本研究では、観光地経営の視点に立ち、黒部市の新たな地域資源の発掘・磨き上げ、既存産業との連携による観光商品や特産品などの創造の可能性について調査する。そして、その結果を「観光まちづくりプラン」にまとめ、自治体等に提案していくことを目的としている。

3. 調査研究の内容

本研究では、文献調査や既存データの分析に加え、フィールドワークを通して、現地の課題発見、新たな地域資源の発掘、その資源を活用した新たな観光創造に向けた調査分析を行った(表1)。立山黒部アルペンルートでは、立山ケーブルカー、立山高原バス、トロリーバス、ロープウェイ、黒部ケーブルカーに乗り、黒部ダムまでの経路、その間の地域資源の利活用の状況を調査。関西電力黒部ルートとの結節により、どのような観光ストーリーが描けるのかの検討を行った。

また、黒部ルートの一般公開の際の起点となる宇奈月温泉エリアでは、黒部峡谷鉄道(以下、トロッコ電車)を活用した既存の観光商品を通じて、黒部ダムまでの経路がつながることで、宇奈月温泉やトロッコ列車といった既存の観光資源をどのように磨き上げていくのかについての調査を行った。そして、現状の観光客が、どのような観光行動をとっているのか、加えて、宇奈月温泉エリアの観光まちづくりをどのように進めていくべきかの検討材料とすべく、宇奈月温泉エリアで210人の観光客を対象にアンケート調査を実施した。

(表1) 本研究で実施したフィールドワークの概要

調査日	調査先	調査内容
9月30日	立山黒部アルペンルート	同エリア内の観光動向、観光資源の発掘
11月1日	樺平周辺 堅坑トンネル内部 宇奈月温泉エリア	既存観光商品(黒部峡谷パノラマ展望ツアー)を通じた、宇奈月温泉エリアの観光動向、観光資源の発掘
11月2日	宇奈月温泉エリア	観光客を対象としたアンケート調査の実施
11月9日	宇奈月ビール館 道の駅うなづき	宇奈月温泉周辺エリア内観光施設の観光動向、観光資源の発掘
1月27日	黒部宇奈月温泉駅周辺	新幹線駅周辺の観光動向、二次交通に関する現地踏査

さらに、現地の自治体や観光協会、さらには、観光関連事業者等がどのような取り組みを行っているのか、具体的な観光振興策、観光振興事業の実情把握を目的に、黒部市役所、一般社団法人黒部・宇奈月観光局、宇奈月ビール株式会社、一般社団法人立山黒部ジオパークへのヒアリング調査を行った(表2)。

ヒアリング調査で特に意識したことは、関西電力黒部ルートの一般公開により、黒部市から立山町、そして、富山市へとといったように、富山県内の周遊性が高まることである。加えて、9市町村で構成する立山黒部ジオパークの活用、観光資源の発掘・磨き上げ、ジオパークの特徴を活かした観光ストーリーのあり方について探ることを目的に行った。

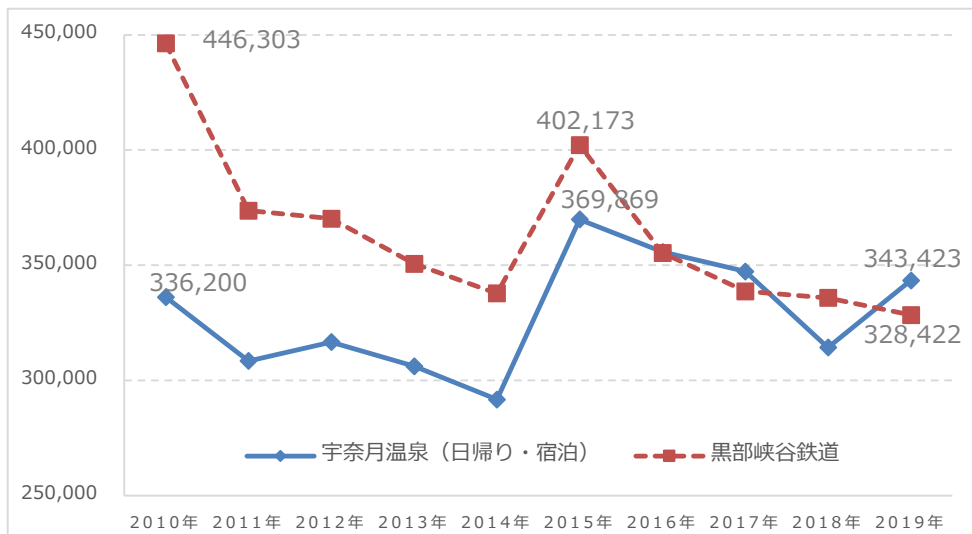
(表2) ヒアリング調査実施先一覧

調査日	ヒアリング調査先
10月21日	一般社団法人立山黒部ジオパーク協会 専門員 山岡 勇太 氏
11月9日	一般社団法人黒部・宇奈月観光局 営業主任 石田 智章 氏
11月9日	宇奈月ビール株式会社 代表取締役社長 大橋 聡司 氏
1月27日	黒部市役所 産業経済部商工観光課 課長 小倉 信宏 氏

4. 調査研究の成果

本研究を通じて、黒部市内には、トロッコ列車、宇奈月温泉、宇奈月麦酒館といった宇奈月エリアの観光資源に加え、立山黒部ジオパーク、生地、くろべ牧場まきばの風、YKK センターパークといった観光資源が

数多く広域に存在していることが分かった。

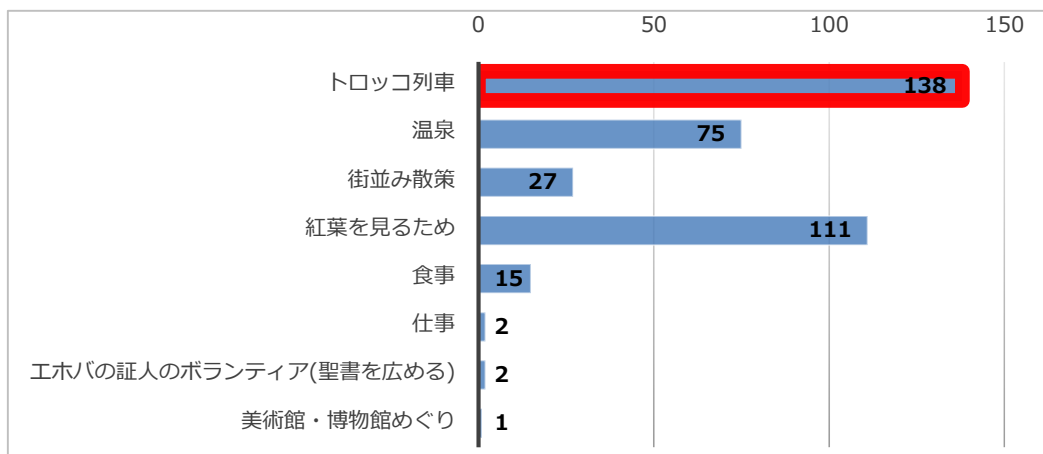


(図1) 宇奈月温泉、黒部峡谷鉄道(トロッコ列車)の観光客入込数の推移
(出所:黒部市資料をもとに作成)

しかし、ヒアリング調査から、黒部市でこれまで最も多くの観光客を集めていたトロッコ列車の国内観光客入込数の減少が著しく、増加傾向にある外国人観光客でもその減少を埋められていない状況にあることが分かった(図1)。加えて、トロッコ列車と宇奈月温泉、宇奈月スノーパークなど、近隣の観光施設でさえ、連動・連携しておらず、エリア内の回遊効果を引き出せていない。これは、ヒアリング調査だけでなく、宇奈月温泉で行ったアンケート調査からも読み取ることができ、宇奈月エリアの観光客は日帰り客が多く、トロッコ列車と宇奈月温泉をセットにした観光動向ではなく、どちらか単体という観光行動になっていることが分かった(図2)。

黒部市は北陸新幹線の開業により、首都圏からの観光客が増加傾向にあるにも関わらず、観光施設が点在していること、二次交通が未整備なことから、長期滞在型の観光地になっていない状況にある。こうしたことから、関西電力黒部ルート的一般開放に向けて、これまでバラバラな存在だったトロッコ列車、宇奈月温泉、立山黒部ジオパークなどの観光資源を繋ぐ観光ストーリーの編集に早期に取り組む必要がある。

上記のことから、黒部市の観光振興においては、①冬期の観光閑散期への対応策強化、②脆弱な二次交通の改善策の検討、③観光地が点在していて周遊しづらい課題への対応策、④既存の観光資源の磨き上げが足りずストーリー性を欠いている、という問題点・課題があるということを整理することができた。



(図2) 宇奈月温泉街に来た目的(アンケート調査結果より)

5. 調査研究に基づく提言

今回の研究を通じて、前記の4点を黒部市の観光振興における問題点・課題として整理した。そして、この4点の問題を解決するために、以下の視点から観光まちづくりを進めていくべきだと考える。

(1) 訪日外国人観光客（中国人）をターゲットにした受け入れ環境整備

2020年に北京冬季オリンピック・パラリンピックを控えている中国では、2025年までにウィンタースポーツ人口を3億人にするという計画が発表された。しかし、中国の多くのスキー場は人口雪で雪質が悪く、都市部から離れており、インフラの整備も遅れているため、ニーズの高まりに対して施設整備が追いついていない状況にある。そこで、冬期の閑散期対策として、中国からの観光客を富山県内スキー場に誘致して、ウィンタースポーツを楽しんでもらえる仕組みづくりが有効である。

具体的には、宇奈月のスキー場「スノーパーク」と宇奈月の温泉を組み合わせた「スキー＋温泉」、ジオサイトを組み合わせた「ジオサイト＋温泉」といったプランを造成していくことである。宇奈月スノーパークは比較的規模が小さいため、それを利用した「1日貸し切りプラン」を提案し、黒部市の冬期観光の魅力を創造する。また、冬期、中国には「春節休暇」があるため、「春節」にちなんだ黒部市ならではの観光プランづくりも効果的な戦略になると考えている。

(2) 黒部市ならではの「観光ストーリー」の創造

黒部市には、山・川・海に育まれる地域資源や地域産業が存在している。そのため、それぞれが連動・連携し、新たなシナジーを生み出す「観光ストーリー」を描くことが必要である。例えば、「産業観光」という切り口で見れば、YKK、関西電力黒部ルート、トロッコ列車などの観光資源が浮かび上がる。こうした産業観光施設を、観光ストーリーに繋ぎ合わせ、周遊型の観光を促進していく必要がある。

また、産業観光施設間の連携を促すことで、新たな観光商品、特産品の開発、異業種交流などの仕組み（エコシステム）の構築につなげていけると考えている。

(3) ナイトタイムエコノミーの強化

黒部市は、脆弱な二次交通、そして、観光地が点在していて周遊しづらいといった背景もあり、目的とする観光資源の連結がなく、結果的に滞在時間が短くなるという課題を抱えている。そこで、滞在型観光を促進するため、夜型の観光（ナイトタイムエコノミー）を強化し、その仕掛けづくりを進める必要がある。

①足湯屋台

宇奈月温泉街では夜間、まちを出歩いている観光客がほとんど見られず、商店街の飲食店の閉店時間も早い。そのため、夜間のまち中には活気がみられず、閑散としていた。旅館内の施設を利用する傾向にあることは分かるが、まち中の魅力創造は、滞在時間を延ばすだけでなく、リピーター確保にもつなげていくことができる。そのためにも、宇奈月温泉ならではの夜間観光の創造が必要である。

そこで、まち中に点在する「足湯」を活用して、足湯に屋台の機能を組み合わせた「足湯屋台」を開くことで、夜市に馴染みのある中国人観光客や台湾人観光客の心を掴み、リピーター確保に結び付ける仕組みづくりが必要である。

②夏の星空観察

観光客の入込数を見ると、中国人観光客は、夏に多いというデータがあるため、夏の期間を利用した「星空観察」のツアー造成を提案する。黒部市の自然の恵み、ジオパークの魅力を体感してもらい、黒部のジオストーリーを身体に吸収させる。また、中国人は夜に活発的に活動する国民性があるため、夜間に自国ではできないことを体験してもらうことで、感動を覚えてもらい、リピーターにつなげていく仕掛けづくりが必要である。

今回の課題解決にあたり、最重要ターゲットとして中国人観光客を想定している。

現在、中国から富山空港への直行便は2便あるにも関わらず、台湾や韓国に比べて来客者数が少ないのが実態である。直行便という利点を有効活用していくためにも、中国人観光客の受け入れ環境整備が短期的な視点からも効果的だと考えている。

6. 課題解決策の自己評価

本研究では、フィールドワークによる現地踏査を積極的に行った。観光客、そして、事業主体者の両方の目線で地域課題や魅力創造について研究を進めることで、現地の課題をきめ細かく分析し、そのうえで、どのような解決策があるのかを提言することができた。

しかしその一方で、調査の重点内容が、北陸新幹線の開業効果、関西電力黒部ルート的一般開放としていたことから、フィールドワーク先が、黒部宇奈月温泉駅から宇奈月温泉、関西電力黒部ルート、さらには、立山黒部アルペンルートといったエリアに特化してしまったことが反省すべき点といえる。

黒部市には多くの観光資源が点在している。今後は、こうした観光資源についても、フィールドワークを通じて調査し、それぞれの観光資源の磨き上げについても検討していきたい。さらに、課題解決策をより実効性のあるものにしていくため、具体的な観光プランの企画・造成をはじめ、継続的な事業化に向けたシミュレーションや運営体制について、今後のゼミナールでの研究活動において、引き続き取り組んでいきたいと考えている。